

令和7年度都市経済委員会行政視察報告書

都市経済委員長 櫻井 速人

1 観察期日

令和7年10月1日（水）～2日（木）

2 観察地および観察事項

- ・アグリパーク新潟（新潟市）
- ・ステージえんがわ（三条市）

3 観察概要

1日目

アグリパーク新潟（就農支援と6次産業について）

2007年市町村合併より田園型政令指定都市に位置づけられる

新潟市耕地面積 農地面積 32700 ha 市域面積 72600 ha ※耕地面積比率 45%
(2020年農業センサス)

市町村別農業産出額 8位（2023年農水省公表）

アグリパーク施設概要

敷地面積 39,364 m²

（クラブハウス・体験ハウス・食品加工支援センター・体験畜舎・農機具庫・宿泊コテージ棟
宿泊棟・直売所・レストラン・体験ほ場・駐車場）

○就農支援への主な取り組みと実績

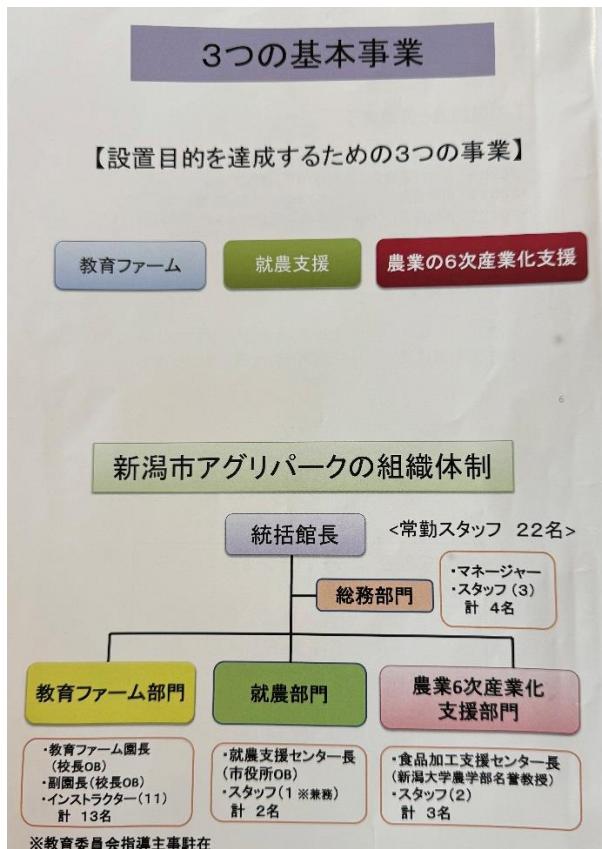
学校授業として農業体験を行う日本初の公立教育ファームであり、一般向け体験事業も実施し子供から大人まで広く農業に対する理解を深める機会を設けるとともに

区に関係なく市内全域を対象にワンストップ窓口として機能し、就農相談を受け付ける。

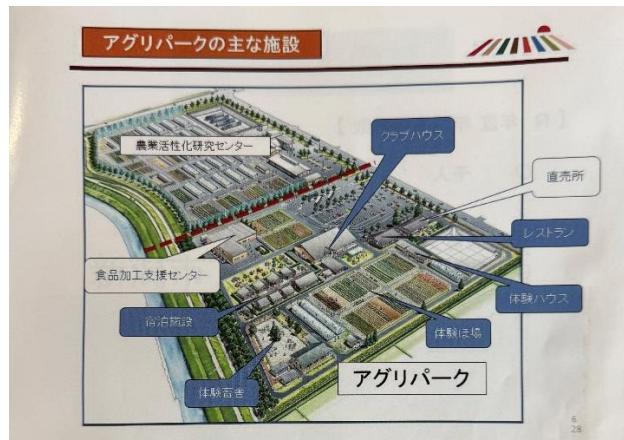
新潟市からの業務委託による基本技術習得、高度専門技術研修、収納前後のサポートを通して第6次産業にもつながる相談受付を行う。

事業実績

- ・教育ファーム学校利用者数
平成27年度から令和6年度 89, 114名
- ・教育プログラム数 70プログラム
- ・就農相談を経て就農した人数は平成26年から令和7年9月末時点で18名
- ・研修受講を経て就農した人数は平成28年度から令和7年度で10名



※アグリパークの基本事業と組織体制



※主な施設

所感

原材料生産から加工までの支援がワンストップでまとまっている施設設備、環境に感銘を受けました。これから農業を始めたい人だけでなく、すでに農業をされている方のさらに一歩進んだ加工生産への取り組みも支援し、農業の裾野を広げている点も非常に工夫されている。地域ブランドや名産品、その土地でとれた物をその土地の人たちで作り出す、日本の産業の原点ともいえる農業で人と町をつなぐ素晴らしい施設でした。

2日目

新潟県三条市 ステージえんがわ/図書館複合施設まちやま（中心市街地の魅力向上）

ステージえんがわ概要

2016年7月創設

建物全体が縁側というコンセプトの元、木架構による約40メートルの奥行きの中に半屋外空間のみんなのステージや食堂、軒先空間など、人々が集う全天候型の交流広場
壁や扉がなく境界のない自由な場として捉えられている。

2016年グッドデザイン賞受賞

2022年に※図書館複合施設まちやまが隣接して創設され敷地内として一体化

施設場所 新潟県三条市元町11-63

構造 木造平屋建て

敷地面積 1693.95m²

延べ床面積 277.62m²

事業費（外構含む） 1億3172万円

収容人数（屋根付広場） 50名

※図書館複合施設まちやま

図書館、鍛冶屋ミュージアム、科学教育センターと屋外広場、ステージえんがわを含めた複合施設であり、稀少ピアノの解放や図書カードで工具レンタルが出来るまちやま道具箱を実施し、工具の貸し出しという利便性向上によるコミュニティ活性化の拠点となっている。

ステージえんがわ背景とコンセプト

○背景

高齢化や人口減少によるコミュニティ機能の低下に対して人々が集まりやすい開かれた空間を創出することで、外出のきっかけや交流を生み出すことを目指す

○コンセプト

屋根付きの縁側のような空間で、内外の境界を曖昧にして自然な交流を生み出し、外出機会の創出と健康寿命の延伸、地域活性化を図る

足を運んでもらう契機として飲食店を常設に配置し地元食材や燕三条製の金属製食器等も使用

所感

地域の活性において一番大切なのは人が動くことであり、人と人がつながってコミュニティを作り、消費を促す事が肝心だと思います。その点を核に置いた素晴らしい施設や取り組みでした。

地域産業に着目した工具貸し出しなどはとても面白い発想。

高齢化や孤立化、核家族の増加など背景にありますが、コロナ禍を経て人が集まる、関わり合う形が変わったり、リセットされてしまったことも一因と考えられます。

当市でも様々なイベントを通しての賑わい、コミュニティ創生、また可能であれば“えんがわ”的な開放的で老若男女が交流できる集いの場所が実現できないものかと思いを巡らせるきっかけとなりました。